

成田市総合計画
NARITAみらいプラン
第2期基本計画

資料編

1 「NARITAみらいプラン」第2期基本計画 策定経過

年月日	取組の経過	報告内容・取組内容
平成31(2019)年1月24日	総合計画策定委員会	第2期基本計画の策定
平成31(2019)年2月16日	国際医療福祉大学とのワークショップ	今後の成田市のまちづくりについて考えるワークショップ
平成31(2019)年2月8日	定例市議会	第2期基本計画の策定
平成31(2019)年3月13日	総合計画審議会	第2期基本計画の策定
平成31(2019)年3月27日	生涯大学院とのワークショップ	今後の成田市のまちづくりについて考えるワークショップ
平成31(2019)年 4月5日～4月22日	市民意識調査	「満足度・重要度調査」と 「進捗状況調査」
平成31(2019)年4月26日	市職員ワークショップ	市職員によるワークショップ
令和元(2019)年5月12日	市民ワークショップ 「なりた☆未来予想図」	市民によるワークショップ
令和元(2019)年5月28日	総合計画策定委員会	市民参画・職員参画の結果概要
令和元(2019)年5月29日	総合計画審議会	市民参画・職員参画の結果概要
令和元(2019)年6月20日	定例市議会	市民参画・職員参画の結果概要
令和元(2019)年8月23日	総合計画策定委員会	第2期基本計画(素案)
令和元(2019)年8月28日	総合計画審議会	第2期基本計画(素案)
令和元(2019)年9月12日	定例市議会	第2期基本計画(素案)
令和元(2019)年 10月1日～10月30日	パブリックコメント	第2期基本計画(素案)に対する パブリックコメント
令和元(2019)年10月28日	市職員SDGs研修	市職員を対象とした SDGsに関する研修会
令和元(2019)年11月12日	総合計画策定委員会	パブリックコメント等の実施結果 第2期基本計画(原案)
令和元(2019)年11月20日	総合計画審議会	パブリックコメントの実施結果
令和元(2019)年12月12日	定例市議会	第2期基本計画(原案)
令和元(2019)年12月16日	総合計画審議会	第2期基本計画の策定(諮問) 第2期基本計画(原案)
令和2(2020)年1月22日	総合計画策定委員会	第2期基本計画(最終案)
令和2(2020)年1月28日	総合計画審議会	第2期基本計画(最終案) 第2期基本計画(案)に対する答申
令和元(2020)年3月19日	定例市議会	第2期基本計画議決

1 成田市総合計画審議会設置条例

(設置)

第1条 成田市総合計画の策定等に伴う必要な調査及び審議をするため、市長の諮問機関として成田市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(組織等)

第2条 審議会は、委員12人以内をもって組織し、識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第3条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第5条 審議会の庶務は、総合計画主管課において処理する。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、市長が別に定める。

2 成田市総合計画審議会委員

(五十音順)

氏名	役職名もしくは団体名
浅野 正博	成田市国際交流協会 理事
石井 稚入	成田国際空港(株) 地域共生部 担当部長
大野 淳子	成田市男女共同参画推進委員
金崎 恵子	(福)豊立会 理事・統括福祉部長
菅野 倫子	国際医療福祉大学 成田保健医療学部言語聴覚学科 准教授
下田 健一郎	(一社)成田青年会議所 監事
竹林 克夫	千葉県間税会連合会 会長
野平 浩明	生涯学習推進協議会委員、特定郵便局長
一畝田 裕樹	成田市農業青年会議所 会長
末崎 裕介	日本航空(株)成田空港支店 副支店長
宮 邦弘	(一社)千葉県宅地建物取引業協会
山崎 幸一	元千葉県職員

3 元委員

(五十音順)

氏名	役職名もしくは団体名
新井 とみ子	行政改革推進委員
池上 貴之	成田市農業青年会議所
小野 哲男	生涯大学校卒業生
金沢 照宗	(一社)成田青年会議所
杉原 素子	国際医療福祉大学
匝瑳 克己	伊能歌舞伎米研究会
高梨 弘子	成田国際空港(株)
山崎 良美	NPO法人子どもプラザ成田

成田市総合計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 成田市総合計画の策定に関し調査・検討を行うため、成田市総合計画策定委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は別表1に定める者をもって組織する。

2 委員会に委員長を置き、副市長をもってこれに充てる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した者がその職務を代理する。

4 委員長は会務を統括し、委員会を主宰し、会議を招集する。

第3条 委員会に幹事会を置く。

2 幹事会は別表2の者をもって組織する。

3 幹事会に幹事長を置き、企画政策部長をもってこれに充てる。

4 幹事長に事故あるときは、幹事長があらかじめ指定した者がその職務を代理する。

5 幹事長は会務を統括し、幹事会を主宰し、会議を招集する。

(各部課等の協力)

第4条 委員会の目的達成のために各部課等は積極的に協力を行うとともに、委員長及び幹事長の招集する会議に出席を求められたときは、各部課長等はそれぞれの会議に出席して意見を述べなければならない。

(事務局)

第5条 委員会に事務局を置き、企画政策部企画政策課、財政部財政課がこれにあたる。

2 事務局の事務は企画政策部企画政策課が行う。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

別表1 委員会

副市長
教育長
企画政策部長
総務部長
財政部長
空港部長
シティプロモーション部長
市民生活部長
環境部長
福祉部長
健康こども部長
経済部長
土木部長
都市部長
水道部長
教育部長
消防長

別表2 幹事会

企画政策部	部長
企画政策部	企画政策課長
総務部	総務課長
財政部	財政課長
空港部	空港地域振興課長
シティプロモーション部	観光プロモーション課長
市民生活部	市民課長
環境部	環境計画課長
福祉部	社会福祉課長
健康こども部	子育て支援課長
経済部	商工課長
土木部	土木課長
都市部	都市計画課長
水道部	業務課長
教育部	教育総務課長
消防本部	消防総務課長

4

諮問と答申

1 諮問

成企第502号
令和元年12月16日

成田市総合計画審議会
会長 野平 浩明 様

成田市長 小泉 一成

成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の策定について(諮問)

成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画を策定するにあたり、成田市総合計画審議会設置条例により、このことに関し貴審議会に諮問いたします。

令和2年1月28日

成田市長 小泉 一成 様

成田市総合計画審議会
会長 野平 浩明

成田市総合計画「NARITAみらいプラン」 第2期基本計画(案)について(答申)

令和元年12月16日付け成企第502号で諮問のありました成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画(案)について、成田市総合計画審議会設置条例第1条の規定により調査及び審議を行った結果、次のとおり答申します。

答 申

成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画(案)については、令和元年12月16日に市長より諮問を受け、各委員の調査・研究及び審議会において慎重に検討を重ねた結果、本審議会は、本案を適切なものであると評価する。

成田市では、成田市総合計画「NARITAみらいプラン」の基本構想として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像に据え、その実現のため、「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共に発展するまちづくり」の3つを基本姿勢に掲げたまちづくりが進められている。

現行の第1期基本計画の4年間では、国家戦略特区を活用した大学医学部の誘致、成田空港の更なる機能強化の推進、卸売市場の空港隣接地への移転再整備といった未来のまちづくりの方向性を示す大きな取組みをはじめ、子育て支援や地域医療、福祉の増進、スポーツツーリズムを含めた観光施策など、持続可能なまちづくりの実現に向けて「成田らしさ」を発揮した様々な施策が展開されてきた。

このような中、新たな計画となる第2期基本計画(案)では、これまでの実績や課題を引き継ぎつつ、成田市を取り巻く社会経済状況の大きな変化を踏まえ、次の4年間で対応すべき課題や取り組むべき方向性が網羅されており、現行計画のもとで進められている持続的発展への勢いを加速させ、将来都市像の実現に向けてステップアップが図られる計画となっている。

新たな4年間では、国際医療福祉大学成田病院の開院や新生成田市場の開場等に伴う空港周辺地域の発展に向けたまちづくりが進められるほか、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした「おもてなし」の取組みや、ハード・ソフト両面におけるレガシー活用の取組みなど、魅力的かつ重要な施策が目白押しとなっている。

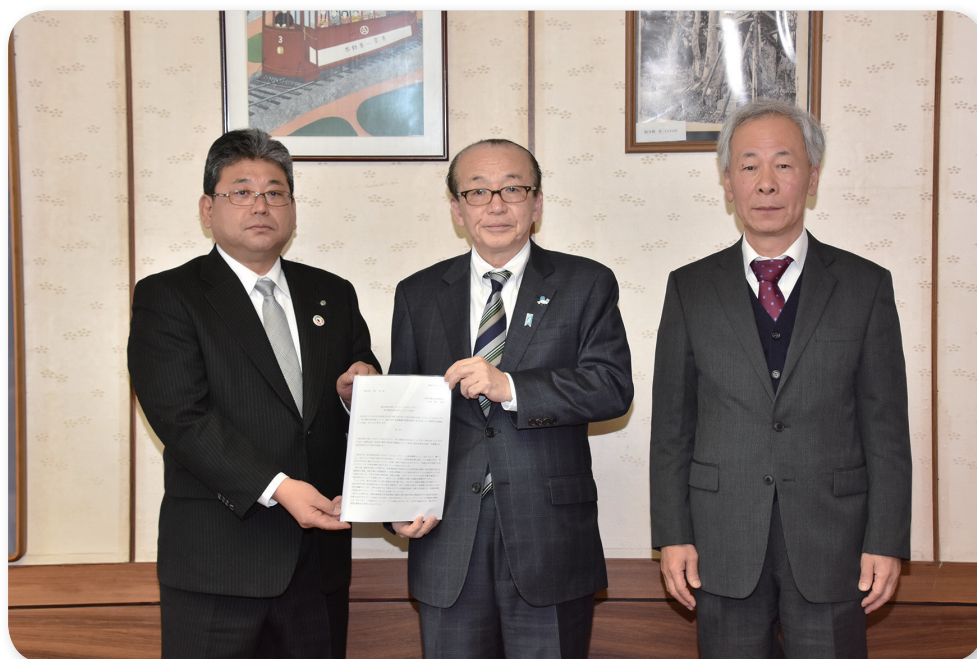
また、子育て支援や医療、介護・福祉施策の更なる充実や、増加する外国人との共生を重点目標として掲げており、誰もが住みやすいまちの実現に向けた未来を見据えた計画として評価できるものである。

さらに、新たに取り入れることとしたSDGs(持続可能な開発目標)の理念については、貧困問題をはじめ経済成長や気候変動など、世界規模で取り組むべき国際目標に対する市民一人ひとりの意識醸成が課題解決への第一歩となることから、市として積極的な推進を図っていくことは大いに評価に値する。

我が国が人口減少社会に突入している中で、成田市においては、成田空港の更なる機能強化等に伴い、今後も人口が増加していくと推計されているが、少子高齢化は緩やかに進展していくことから、それぞれの地域が補完し合い、地方創生に資する様々な施策を実施することにより、持続可能なまちづくりが実現することを期待するところである。

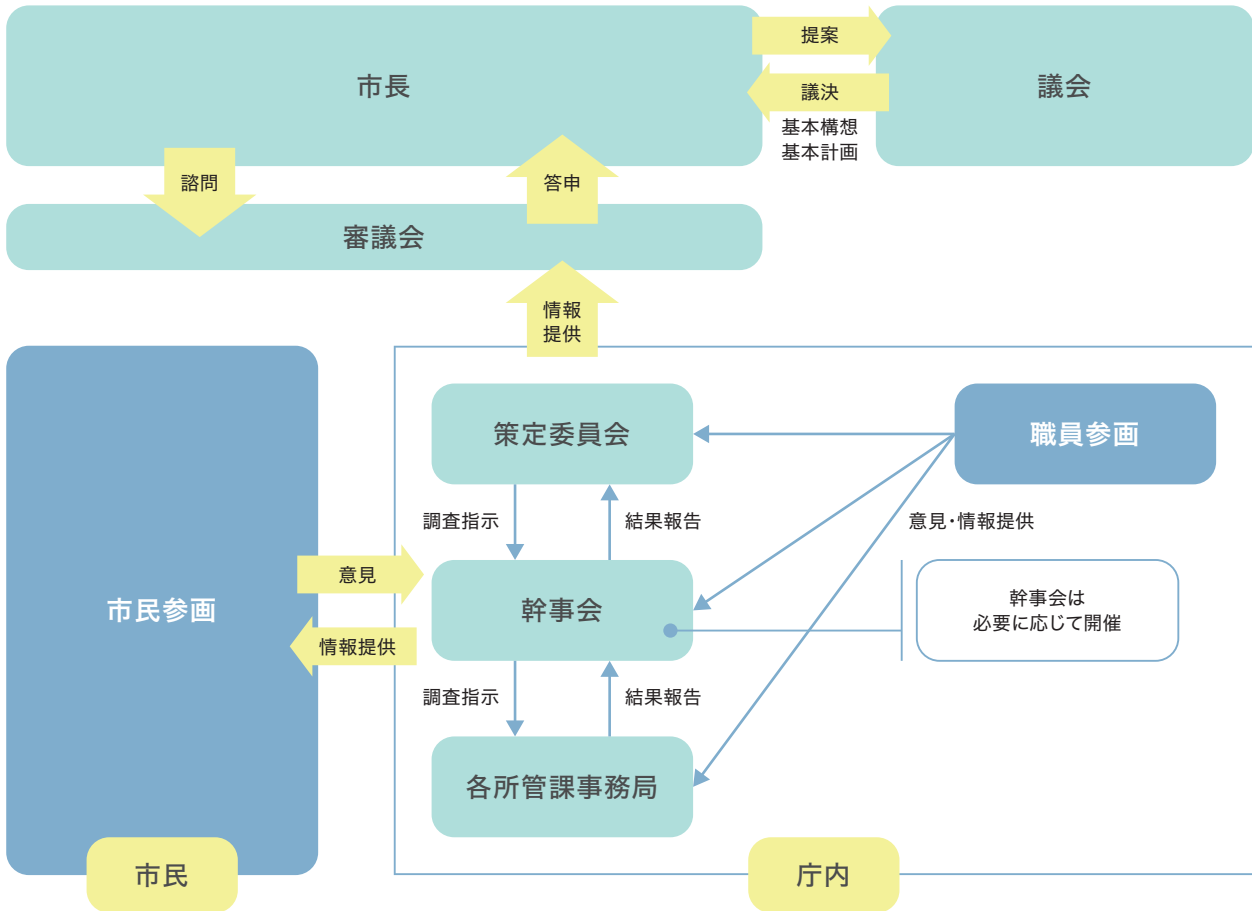
なお、今後の施策の具体的な展開にあたっては、次の点に留意したうえで、市政運営にあたられることを期待する。

- 年間発着容量50万回の実現に向けた成田空港の更なる機能強化策を積極的に推進するとともに、航空機騒音対策の更なる充実を図り、空港の機能強化と生活環境の保全との調和を図られたい。
- 近年多発する水害や地震などの大規模自然災害に対する防災・減災対策を強化し、災害等に強いまちづくりを推進されたい。
- 増加する外国人との共生に向けて、日常生活や外国人児童への教育に対する支援体制の充実に取り組まれたい。
- JR・京成成田駅前参道口地区や表参道周辺において、誰もが訪れやすく快適に過ごせる魅力ある空間づくりを目指し、観光施設の整備やWi-Fi環境の充実を進めるなど観光客の受入れ体制の強化に向けた積極的な取組みを図られたい。
- 超高齢社会に突入し、介護サービスの人材不足が深刻化している中、福祉・介護職員の処遇改善など人材確保対策に取り組まれたい。
- 幼児教育・保育の無償化に伴う保育需要の変化等に対応しながら、保育サービスにおける質・量の更なる向上に努め、子育てしやすい環境整備に取り組まれたい。
- 地域の実情に応じた交通ネットワークの構築に努め、地域公共交通アクセスの向上を図られたい。
- 市内には幅の狭い道路が存在していることから、歩行者の安全確保等のため、道路環境の計画的な整備を図られたい。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、共生社会ホストタウンとしてユニバーサルデザインの導入やソフト・ハード両面のバリアフリー化に取り組まれたい。



5 総合計画策定体系図表

総合計画の策定体制



市民参画

- 市民を巻き込んだ意見交換や、市民への情報提供を通じ、市民目線の課題抽出や、公共サービスの担い手として市政のあり方を検討する。
- また、多様な世代からの、本市のまちづくりに対する意見や要望を集約し、総合計画に反映させる。
- 市民意識調査、国際医療福祉大学ワークショップ、生涯大学院ワークショップ、なりた☆未来予想図

職員参画

- 行政の担い手としての視点から、市政の方向性を検討し、若手職員の柔軟な発想と、豊かな感性を活かした、施設提案などを行う。
- また、本市を取り巻く社会経済状況の変化や、今後想定される課題、次期基本計画の策定過程について学ぶことで、職員の政策形成能力の向上を図るとともに、職員の総合計画に対する意識の醸成を図る。
- 成田市職員ワークショップ

6 成田市市民意識調査

1 調査の目的

市民ニーズや市民の普段の行動様式を的確に把握することで、現行の成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第1期基本計画の進捗状況を把握し、第2期基本計画の策定に活用することを目的として実施しました。

2 調査対象

成田市に居住する15歳以上の市民5,000名を無作為抽出。

3 調査内容

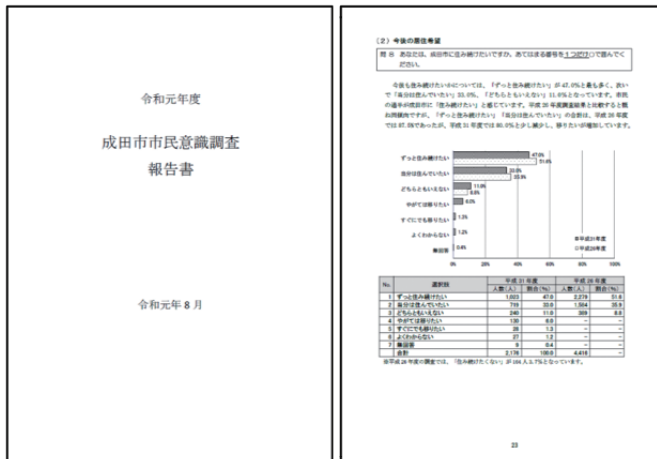
施策の相対的な位置づけを把握する「満足度・重要度調査」と、施策の進捗状況を把握する「進捗状況調査」の2種類の調査を実施しました。

4 調査方法

市民意識調査票を郵送により配布、回収
(調査期間：平成31(2019)年4月5日から同年4月22日)

5 回収結果

2,176件(回収率43.5%)

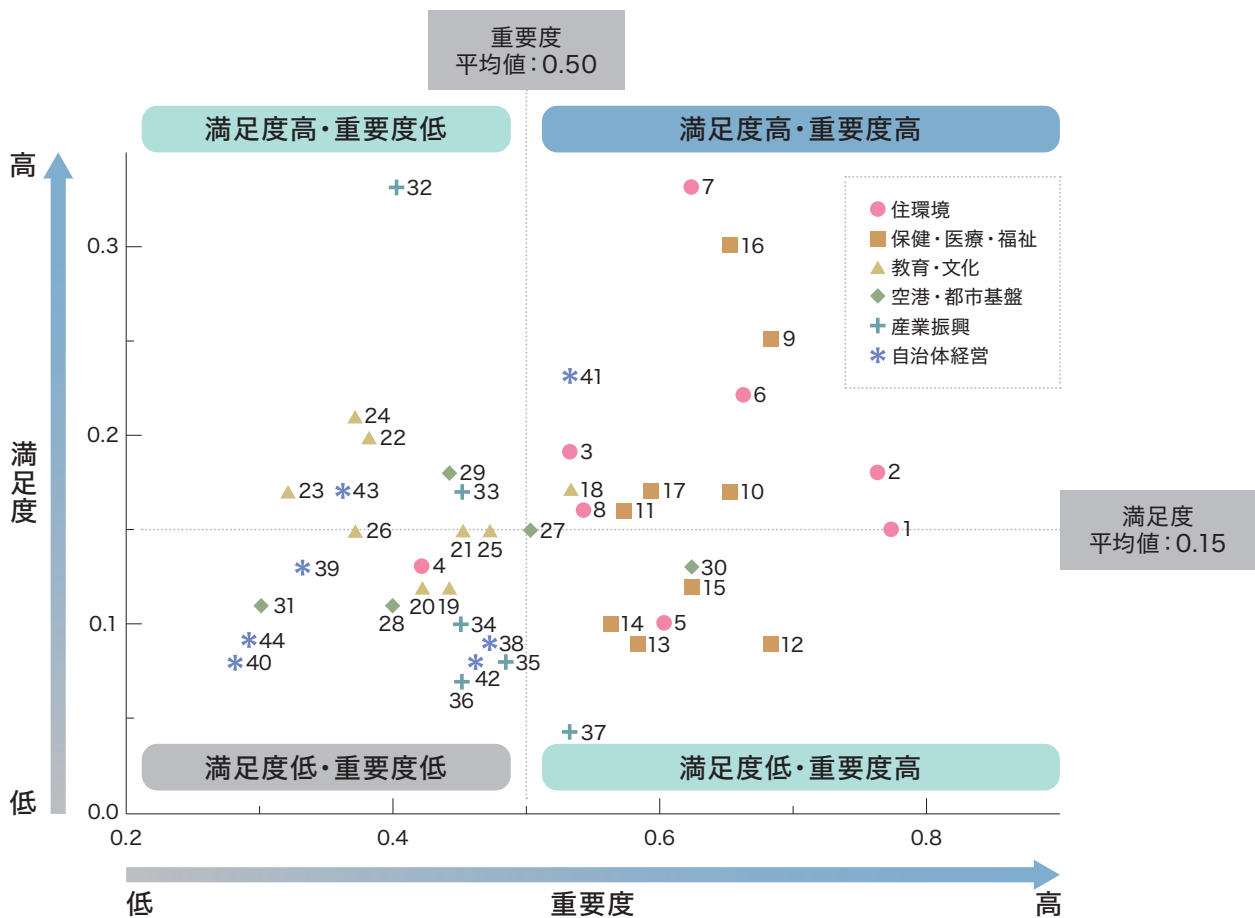


6 調査結果概要

成田市が行っている施策を満足度と重要度を軸とし、①満足度、重要度ともに高い施策、②満足度が高く、重要度が低い施策、③満足度が低く、重要度が高い施策、④満足度、重要度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

重要度の平均値は0.50となっており、全体的に見て、成田市の実施している施策については、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえる一方で、満足度の平均値は0.15と重要度の平均値と比較すると、0.35のギャップがあります。

これは現行の行政サービス水準と市民の期待度には差異があることを示しており、市民の市政に対する期待度の高さがうかがえます。



満足度		重要度	
回答の選択肢	加重平均の得点	回答の選択肢	加重平均の得点
満足	1.0	重要	1.0
やや満足	0.5	やや重要	0.5
どちらとも言えない	0.0	どちらとも言えない	0.0
やや不満	-0.5	あまり重要ではない	-0.5
不満	-1.0	重要ではない	-1.0

満足度・重要度マトリックス図

No.	満足度高・重要度低	No.	満足度高・重要度高
21	青少年を健全に育成する	1	災害などに強いまちをつくる
22	市民が学び成果を生かすまちづくりを推進する	2	犯罪や事故などが起こりにくいまちをつくる
23	成田の地域文化や伝統を学ぶ	3	空港と共生する生活環境を整える
24	スポーツに親しめる環境をつくる	6	水の安定供給と汚水処理の適正化を図る
25	国際理解を促進する	7	ごみ処理の適正化と環境衛生の向上に努める
26	国際交流を推進する	8	地球環境にやさしいまちをつくる
29	地域特性を生かした土地利用と快適な市街地形成を図る	9	子どもの健やかな成長を支援する
32	成田特有の観光資源の更なる活用を図る	10	安定した子育てを支える基盤を整える
33	魅力ある国際性豊かな観光地づくりを推進する	11	高齢者の生きがいづくりを支援する
43	情報の共有化によるまちづくりを推進する	16	子どもから高齢者までみんなの健康づくりを支援する
No.	満足度低・重要度低	17	地域医療体制の充実を図る
4	空港周辺地域の振興を図る	18	成田の未来をつくる義務教育を推進する
19	学校・家庭・地域が一体となった教育体制をつくる	27	空港を生かしたまちづくりを推進する
20	幼児教育を推進する	41	市民満足度を重視した行政サービスの向上を図る
28	空港を活用し新たな成田の魅力を開発する	No.	満足度低・重要度高
31	大学を活用したまちづくりを推進する	5	住みやすく快適な生活環境を整える
34	豊かな農林水産資源を次世代に引き継ぐ	12	高齢者が安心して生活できる体制を整える
35	安定した農業経営を支援する	13	障がいのある人の自立した生活を支援する
36	商工業の活性化を図る	14	生活の安定を確保して自立・就労を支援する
38	人権が尊重され男女が共に参画する社会をつくる	15	社会保険制度を安定的に運用する
39	コミュニティ活動を活性化する	30	道路ネットワークと交通環境を整える
40	市民との協働の仕組みをつくる	37	市民が快適に働くことのできる労働環境を整える
42	効率的・効果的な行政運営に努める		
44	広域連携を推進し、地域の一体的発展に努める		

7 成田市×国際医療福祉大学ワークショップ

1 開催概要について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の策定過程に市民参画を図り、国際医療福祉大学の学生を対象に、若い世代の目線・立場から、本市のまちづくりに対する意見や要望を取り入れるため、下表のとおりワークショップを開催しました。
- リラックスした雰囲気の中でオープンに会話し、自由にネットワークを築くことができる空間で生み出された知識やアイデアを、計画の策定に活用しました。

タイトル	成田市×国際医療福祉大学生 「今後の成田市のまちづくりについて考える」
目的	将来を担う若者の視点から、本市の課題や魅力について話しあうことで、市政に対する理解を深め、まちづくりに関する市民意識の醸成を図るとともに、市民の意見を集約し、次期基本計画に反映させる
開催日時	平成31(2019)年2月16日(土)13:00-16:00
場所	国際医療福祉大学
対象	国際医療福祉大学生
参加者数	22名



2 実施方法について

- 参加者5~6人で一つのグループを形成し、ラウンドごとに異なるテーマについて話し合いを行いました。
- 各ラウンドの間には席替えタイムとして、1人(ホスト役)を残して他の全員(旅人)は自由に他のテーブルに移動します。
- ラウンドは全3回とし、第3ラウンドのテーマである「皆さんが望む、これからの成田はどんなまちですか」の中で出た意見の中で、特に印象的だったものを付箋に書き出し、グループ内で情報共有を図るとともに、全体共有として発表を行いました。



第1ラウンド	「成田に住んでいて、感じることや思うことは何ですか」のテーマについて話し合う。
第2ラウンド	第1ラウンドの意見等を踏まえ、「他にはない、成田らしさにどのような可能性を感じますか」のテーマについて話し合う。
第3ラウンド	第2ラウンドの意見等を踏まえ、「皆さんが望む、これからの成田はどんなまちですか」のテーマについて話し合う。
振り返り	第3ラウンドの内容を振り返り、特に印象的だったものを付箋に記入し、グループ内で情報共有を図るとともに、全体共有として発表を行う。

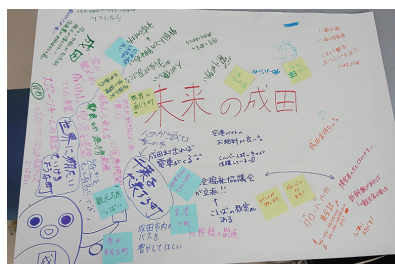
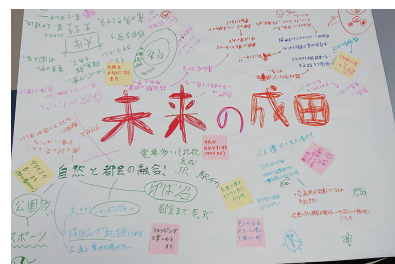
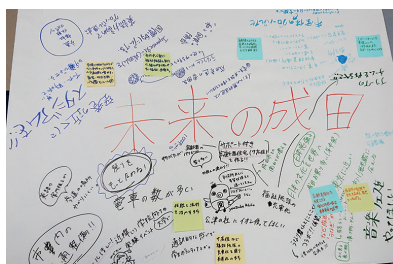
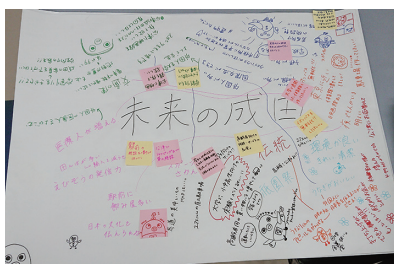
3 グループ意見

全グループの意見

- 家賃やバスなどに、学割を適用させて欲しい
- ショッピングモールやライブハウス、駅ビルなど、賑わいを作るためにも若者向けの施設を充実させて欲しい
- 看護等に触れる機会が増えるよう、大学で小中高向けの実験イベント(職業体験)を行えば
- 駅から成田山までの行き方がわかりにくいので、対策が必要
- 成田市はすでに医療施設が充実していると思うが、本大学の付属病院の開院後、国内のみではなく外国の方も海外から診察に訪れるようになれば、医療従事者が増え、安心して住み続けられるまちになると思う
- 観光客だけではなく、市民が住みやすいまちにするため、電車やバスの本数を増やせば
- 成田への交通アクセスが充実している一方、成田市内の交通の整備は充実していないように感じるため、モノレールを作るなどの整備ができれば、さらに住みやすくなると思う
- 公津の杜の中心地ではデイサービスをよく見かけ、高齢者の住まいについては充実していないと感じた。サポート付きの高齢者住宅の整備を行い、地域全体で高齢者の方を見守れる施設があれば
- オリンピック・パラリンピックで盛り上がった機運を下げないためにも、空港近くにスタジアムを建設し、サッカーなどのプロチームを作ることで、地域で一つのことに対して応援できる環境ができればいいと思う

市政に関するご意見・ご要望(一部抜粋)

- バスの運行本数を増やして欲しい
- 今回のように、成田市の今後について考える機会を増やすことで、取組みに対する姿勢が変わってくると思った。今回出た多くの意見や考えをできる限り、前向きに検討してほしい
- 女性が結婚・子育て期間も仕事を辞めずに働き続けられるよう、保育施設の充実をお願いしたい
- 空港を中心とした町おこしのイメージが強く、観光以外の場所が目立っていない、着目されていない印象があるので、市全体の町おこしができればと思う。同時に、私たちに何かできることがあれば声をかけてほしい



8 成田市×生涯大学院ワークショップ

1 開催概要について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の策定過程に市民参画を図り、成田市生涯大学院の生徒を対象に、広い視野と見識を持った地域の方々の多様な意見を集約するため、下表のとおりワークショップを開催しました。
- リラックスした雰囲気の中でオープンに話し、自由にネットワークを築くことができる空間で生み出された知識やアイデアを、計画の策定に活用しました。

タイトル	成田市×生涯大学院 「今後の成田市のまちづくりについて考える」
目的	将来のまちづくりについて話しあうことで、市民の市政への関心を高め、まちづくりに関する市民意識の醸成を図るとともに、市民の意見を集約し、次期基本計画に反映させる
開催日時	平成31(2019)年3月27日(水)9:30-11:30
場所	生涯大学院
対象	成田市生涯大学院 生徒
参加者数	21名



2 実施方法について

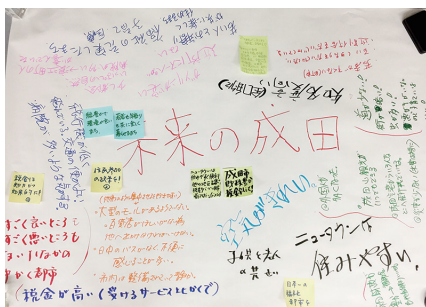
- 参加者5~6人で一つのグループを形成し、ラウンドごとに異なるテーマについて話し合いを行いました。
- 各ラウンドの間には席替えタイムとして、1人(ホスト役)を残して他の全員(旅人)は自由に他のテーブルに移動します。
- ラウンドは全3回とし、第3ラウンドのテーマである「皆さんが望む、これからの成田はどんなまちですか」の中で出た意見の中で、特に印象的だったものを付箋に書き出し、各グループ内で情報共有を図るとともに、全体共有として発表を行いました。



第1ラウンド	「成田に住んでいて、感じることや思うことは何ですか」のテーマについて話し合う。
第2ラウンド	第1ラウンドの意見等を踏まえ、「他にはない、成田らしさにどのような可能性を感じますか」のテーマについて話し合う。
第3ラウンド	第2ラウンドの意見等を踏まえ、「皆さんが望む、これからの成田はどんなまちですか」のテーマについて話し合う。
振り返り	第3ラウンドの内容を振り返り、特に印象的だったものを付箋に記入し、グループ内で情報共有を図るとともに、全体共有として発表を行う。

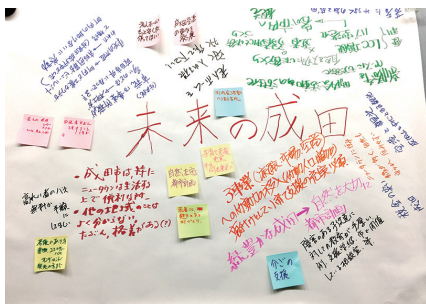
3 グループ意見

グループ:A



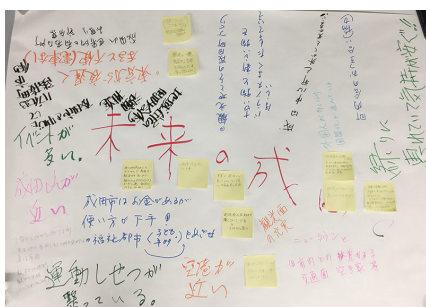
- 成田は観光資源が多く、空港や交通網が発達しており、非常に高いポテンシャルを感じる
- 財源が豊かに感じるが、他市町村と比較して飛びぬけた特徴がないようにも感じる
- 若者や高齢者が楽しく住める環境の整備を進めていく必要がある
- 税金が多いので、効率的かつ効果的に使っていただきたい
- 今回のワークショップのように、住民参加の機会をどんどん増やしてほしい
- 成田といえば、「成田山」「成田空港」「福祉のまち」となるよう、福祉の充実したまちづくりを希望する

グループ:B



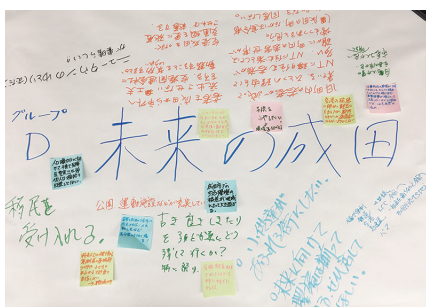
- 市の発展には、成田空港の更なる発展が不可欠。市民もいろいろな形で協力していければと思う
- 知人が有料老人ホームに入っているが、年金だけではならず、持ち出し金もある状態。高齢社会になる中で、このような苦勞をしないで済むのか、と思っている人も多くを知って欲しい
- 介護の仕組みがわかりにくい。どこになにを申請すれば良いのかなど、周知をもっとしっかり行ってほしい
- 若者に魅力あるまちづくりを行わなければならない。お祭りなども若者が不足しているため、隣町から派遣してもらうなど協力をいただいている事情もある
- 健康診断を受ける機会を増やしてほしい
- 他自治体では、70歳以上の方に無料でバスに乗車できるパスを発行しているところもある。高齢者は車を手放したら移動手段がなくなるので、生活に支障が生じる

グループ:C



- 地域コミュニティのつながりが希薄になってきているように感じるため、対策が必要
- 市の中心部は交通網が発達しているが、少し先に出ると移動手段に困ることが多々ある

グループ:D



- 成田の中心地と外部では、生活環境があまりにも違いすぎる
- 成田空港、新生市場、大学病院の3つの施策を通じて、人口の受け入れを促してほしい
- 労働人口が増えるということは、若年層が増えることでもあるため、それを受け入れる体制づくりが必要となる
- 成田は都心からのアクセスが良く、子育てもしやすい環境。今後も子育て支援を充実させて欲しい

9 成田市職員ワークショップ

1 開催概要について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の策定過程に職員参画を図り、本市の政策形成の担い手となる若手職員の柔軟な発想と、豊かな感性を活かした、多様な意見を取り入れるため、下表のとおりワークショップを開催しました。

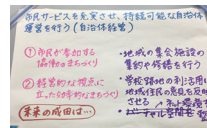
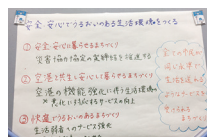
タイトル	成田市職員ワークショップ
目的	行政の担い手としての視点から、市政の方向性を検討するとともに、職員の政策形成能力の向上を図る。また、本市を取り巻く社会経済情勢の変化や、今後想定される課題、次期基本計画の策定過程について学ぶことで、職員の総合計画に対する意識の醸成を図る
開催日時	平成31(2019)年4月26日(金)14:00-17:00
場所	成田市役所6階 大会議室
対象	成田市職員 各課1名(原則として、主査または副主査級)
参加者数	56名



2 実施方法について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」における、将来都市像実現に向けた6つの基本方向ごとにグループ分けをし、ラウンドごとに異なるテーマについて話し合いを行いました。
- 各ラウンドごとに出た意見やアイデアを付箋に書いていただき、グループ内で感想を共有しました。
- グループごとにまとめた、2027年の理想の成田の姿について発表を行いました。

【基本方向】	【グループ】
住環境	1-1 1-2
保健・医療・福祉	2-1 2-2
教育・文化	3-1 3-2
空港・都市基盤	4-1 4-2
産業振興	5-1 5-2
自治体経営	6-1



第1ラウンド	グループごとに割り当てたテーマ(基本方向)における、施策や事業の、普段業務を行っている中などで感じている、「良いところ」、「不足しているところ(課題)」を抽出。
第2ラウンド	グループ内で出た意見を話し合い、集約するとともに、課題の解決や、施策や事業の実現のためにどうすべきかを話し合う。
第3ラウンド	これまでの意見を模造紙にまとめるとともに、「NARITAみらいプラン」の最終年度である、2027年の理想の「成田」の姿について発表。

3 グループ意見

第1節 安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる（住環境）

グループ：1-1

未来の成田は、
「市民にとって身近な空港のあるまちなりた、
市民自ら問題を解決しようとするまちなりた」

●グループ意見

- (1) 道路を整備するなど、インフラ整備を行う。タブレットの支給等ICTを活用した周知活動に努める。
- (2) 空港に隣接する防災機能を備えた複合施設を作る
- (3) インセンティブの付与による市民の問題意識の醸成を図る

グループ：1-2

未来の成田は、
「全ての市民が同じ水準で生活を送れるような
サービスを受けられるまちづくり」

●グループ意見

- (1) 災害協力協定の締結を推進する
- (2) 成田空港の機能強化に伴う、生活環境の悪化に対する住民サービスの向上
- (3) 生活弱者へのサービス強化、電動自転車への助成金

第2節 健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる（保健・医療・福祉）

グループ：2-1

未来の成田は、
「出生率が2を超えます！健康寿命全国1位に！」

●グループ意見

- (1) 住民のニーズに合わせた子育て支援施設をつくる
- (2) 子どもからお年寄りまで、包括的に支援できる場所を各地域につくる
- (3) 交通手段を整備して、高齢者等が外出できる機会をつくる

グループ：2-2

未来の成田は、
「共働き・子育てしやすいまちランキング1位、
高齢者が活躍し、住みやすいまちランキング1位、
健康寿命ランキング1位」

●グループ意見

- (1) 施設の整備だけでなく、ソフト面の子育て支援策の充実
- (2) 将来的に利用されなくなった保育所等を介護施設等へ転用することを推進。移動手段確保のため、住民同士の助け合いを促進。世代間の同居を促進。外国人介護人材の活用
- (3) 介護予防の推進と健康寿命の延伸

第3節 地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む（教育・文化）

グループ：3-1

未来の成田は、
「外国人満足度全国1位！！子どもからお年寄り
まで文化・スポーツを楽しめるまちづくり！！」

●グループ意見

- (1) ICT教育を推進して、未来に通用する人材をつくる
- (2) 施設とイベントを統廃合し、活動しやすい環境をつくる
- (3) 資料や看板を多言語化し、外国人の住みやすいまちをつくる

グループ：3-2

未来の成田は、
「世界の住みたい街ランキング1位！！」

●グループ意見

- (1) 学校運営の効率化を図り、子どもに向けられる目を増やす
- (2) 施設や各種イベントを見直し、新たな文化を生み出せるイベントを提案する
- (3) 成田で暮らす外国人の日本語サポートの強化

第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる(空港・都市基盤)

グループ:4-1

未来の成田は、
「空港・成田山・JR・京成・市等の関係機関
全てを巻き込んだ、未来の成田のまちづくり」

●グループ意見

- (1) 空港利用客が夜も楽しめる表参道づくり
- (2) 市街化区域の見直し。JR・京成・市の3者で駅周辺の整備を行う。公共性の高い機関(年金事務所、保育園など)をスカイタウンに集める

グループ:4-2

未来の成田は、
「ふとした瞬間に訪れたいくなるまち。
そうだ、成田へ行こう」

●グループ意見

- (1) 空港通りの賑わいの創出。市場の活用。航空ネットワークを活用したまちづくり
- (2) 大学病院を活用した魅力あるまちづくり

第5節 活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる(産業振興)

グループ:5-1

未来の成田は、
「観光により『人』新市場で『物』が集まり、
それを土台にした商工業の発展が光るまち」

●グループ意見

- (1) 豊かな観光資源を活かし、観光振興やロケ誘致。ゆるキャラGP1位のうなりくんを活用した観光情報発信
- (2) 農業経営を支援するために、補助制度の充実を図る。新市場の機能を生かして、農産物のブランド化を図る
- (3) 産業まつりを生かしたPRを強化し、市内外の方に魅力ある成田をアピール

グループ:5-2

未来の成田は、
「商農工が連携することで、活性化が図られる。
地場製品のブランド化を推進したことで、
持続可能な経営が可能な都市となる」

●グループ意見

- (1) 有名な観光地を主軸とし、新たな魅力に目を向けてもらうよう、ツアー等の企画支援
- (2) 新たな農業者を増やすため、仕組みづくりの推進。商農工の連携
- (3) 成田製品のブランド推進支援

第6節 市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う(自治体経営)

グループ:6-1

未来の成田は、
「市民の意見が反映されるまち」

●グループ意見

- (1) 地域の集会施設の集約や修繕を行う
- (2) 学校跡地の利活用に地域住民の意見を反映させる。インターネット環境を整える



10 市民ワークショップ「なりた☆未来予想図」

1 開催概要について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の策定過程に市民参画を図り、市民等の意見・要望を集約するため、下表のとおりワークショップを開催しました。

タイトル	市民ワークショップ「なりた☆未来予想図」
目的	今後の成田のまちづくりについて、市民ひとりひとりの想いやアイデアを共有する場を設定し、市民が抱く成田市の魅力や、将来の成田市に対する想いや願いを、様々な方との交流・意見交換を通じて挙げていただき、第2期基本計画の策定に繋げる
開催日時	令和元(2019)年5月12日(日)13:00-16:00
場所	成田市役所6階 大会議室（託児:中会議室）
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・市内在住の16歳以上の方(住民基本台帳から無作為抽出で選出された2,000名のうち参加を希望された方、及び同伴者) ・ホームページ等の参加者募集を見て申込みされた方 ・成田市職員
参加者数	61名(市民48名、市職員13名)



2 実施方法について

- 総合計画「NARITAみらいプラン」における、将来都市像の実現に向けた6つの基本方向ごとにグループ分けをし、ラウンドごとに異なるテーマについて話し合いを行いました。
- 各ラウンドの間には席替えタイムとして、1人(ホスト役)を残して他の全員(旅人)は自由に他のテーブルに移動します。
- ラウンドごとに出た意見やアイデアを付箋に書いていただき、グループ内で情報共有しました。
- 将来の成田の姿「なりた☆未来予想図」について、グループごとに発表を行いました。

【基本方向】	【グループ】
住環境	A-1 A-2
保健・医療・福祉	B-1 B-2
教育・文化	C-1 C-2
空港・都市基盤	D
産業振興	E
自治体経営	F



第1ラウンド	グループごとに割り当てたテーマ(基本方向)における、施策や事業について、普段の生活で感じている「良いところ」、「不足しているところ(課題)」を抽出。
第2ラウンド	第1ラウンドで出た意見について、課題の解決や施策の実現のためにどうすべきかを話し合う。(実現策や新たな提案など)
第3ラウンド	これまでの意見を模造紙にまとめるとともに、将来の成田の姿「なりた☆未来予想図」について発表。

3 グループ意見

第1節 安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる（住環境）

グループ：A-1

なりた☆未来予想図は、
「持続可能であらゆる世代の人が
笑顔で暮らせる全国1位の街」

●グループ意見

- (1) 地域の格差を改善して、安全に暮らせる環境を整える(汚水・がけ地・空き家)
- (2) 空港で雇用されている人たちが、市内で暮らせる環境を整える(駅付近に魅力的な施設を作る)
- (3) 鉄道・道路で重要な施設を結びつける(成田山・成田空港・国際医療福祉大学)

グループ：A-2

なりた☆未来予想図は、
「市民全体のさらなるマナーの向上を目指す！」

●グループ意見

- (1) 電柱の地中化推進、歩行者と自転車の住み分け
- (2) 市営駐車場増設、マナーの注意喚起
- (3) 戸別収集、状況に応じた収集、ごみの減量化(分別マナー等)

第2節 健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる（保健・医療・福祉）

グループ：B-1

なりた☆未来予想図は、
「世代間の助け合いにあふれる成田！」

●グループ意見

- (1) 高齢者の働き口として子育て支援に関わる
- (2) 予防に力を!

グループ：B-2

なりた☆未来予想図は、
「子ども・子育て世代・高齢者・障がい者が
住みやすいまちに」

●グループ意見

- (1) リタイヤした高齢者の活躍の場を兼ねて、小中学校などで共に活動する仕組みをつくる
- (2) 65歳以上の高齢者に、公共交通機関を利用できるシルバーパス制度を導入する

第3節 地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む（教育・文化）

グループ：C-1

なりた☆未来予想図は、
「日本で1番フラットなまち！成田！NARITA!
人種も年齢もこえた垣根なし!!」

●グループ意見

- (1) 地域の活動を活発にする
- (2) 年代をこえた交流
- (3) 公共施設に外国人を採用する

グループ：C-2

なりた☆未来予想図は、
「ゆりかごから墓場まで学べるまち！」

●グループ意見

- (1) 生涯学習の場所を増やし、心豊かな市民の育成
- (2) 空港付近に大規模コンサート・スポーツ施設をつくる

第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

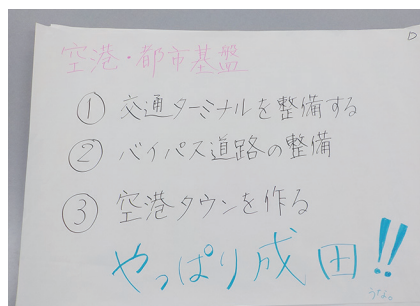
グループ:D

なりた☆未来予想図は、

「やっぱり成田!!」

●グループ意見

- (1) 交通ターミナルを整備する
- (2) バイパス道路の整備
- (3) 空港タウンを作る



第5節 活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる（産業振興）

グループ:E

なりた☆未来予想図は、

「成田空港を利用した人たち⇒成田山へ!!」

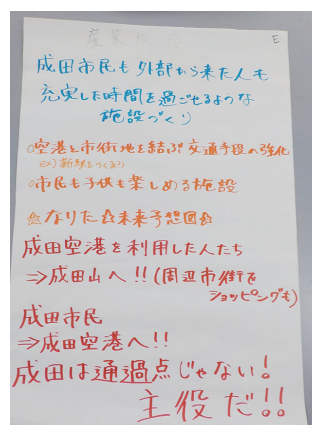
(周辺市街をショッピング)

成田市民⇒成田空港へ!!

成田は通過点じゃない! 主役だ!!」

●グループ意見

- (1) 空港と市街地を結ぶ交通手段の強化
- (2) 市民も子どもも楽しめる施設



第6節 市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う（自治体経営）

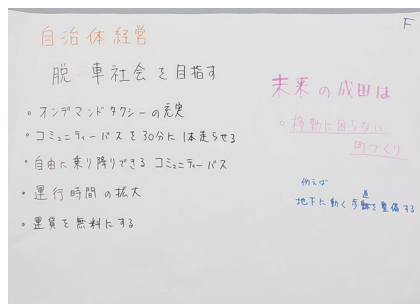
グループ:F

なりた☆未来予想図は、

「移動に困らないまちづくり」

●グループ意見

- (1) 脱・車社会を目指す



11 用語解説

用語	ページ番号	解説
【アルファベット・数字】		
2025年問題	66	1947～49年の「第1次ベビーブーム」で生まれた「団塊の世代」が、75歳以上となる2025年頃の日本で起こる様々な問題のこと。2025年以降、日本人の5人に1人近くが75歳以上という超高齢社会が到来すると予測されている。
3R	56	大量廃棄社会から循環型社会への転換が求められる中で、ごみの減量やリサイクルの促進へ向けて定式化された行動目標を表す標語。発生抑制(reduce、買う量や使う量を減らすこと)、再使用(reuse、使えるものは繰り返し使うこと)、再生利用(recycle、再び資源として生かすこと)の英語の頭文字に由来する。
ALT	92	Assistant Language Teacherの略。日本人教師の外国語授業を補佐する外国語指導助手を指す。多くの場合、その外国語を母語とする外国人が担当する。
EPA	112	Economic Partnership Agreement(=経済連携協定)の略。自由貿易協定とは異なり、ただ単に通商上の障壁を取り除くだけでなく、締約国間で経済取引の円滑化、経済制度の調和並びに、サービス、投資、電子商取引等、さまざまな経済領域での連携強化・協力の促進等を含めた協定。
GAP認証	112	Good Agricultural Practiceの略。農業生産工程管理(GAP)が適正に行われていることを示す認証。第三者機関が農業生産者の取り組みを審査し、付与する。
ICT	44	Information and Communication Technology(=情報通信技術)の略。情報処理や通信に関する技術を総合的に指す用語。
IoT	126	Internet of Things(=モノのインターネット)の略。身の回りの様々なモノがインターネットにつながる仕組み。
LCC	14	Low Cost Carrierの略。低運賃を最大の特徴とする航空会社。機内サービスの有料化、大都市から離れた使用料の安い空港の利用、航空券のインターネット直販などで経費を削減する。
LED	47	Light Emitting Diode(=発光ダイオード)の略。電圧を加えると発光する半導体材料のこと。耐久性があり、節電・省エネ効果が期待されている。
MICE	96	企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
NPO	122	Non Profit Organization(=非営利団体)の略。市民が主体となって、組織的、継続的に地域課題の解決に向けて活動を行う営利を目的としない民間団体。
PR	18	Press Releaseの略。官庁・団体・企業などが、みずからの望ましいイメージおよびその施策や事業内容などについて多くの人々に知らせて理解や協力を求める、広告、宣伝などの組織的活動。

用語	ページ番号	解説
SNS	118	Social Networking Serviceの略。個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。
TPP	112	Trans Pacific Partnership(=環太平洋パートナーシップ協定)の略。太平洋を取り囲む国々の間で、モノやサービス、投資などが出来るだけ自由に行き来できるよう、各国の貿易や投資の自由化やルール作りを進めるための国際条約。
Wi-Fi	108	Wi-Fi Alliance という団体が認定した製品であり、無線LANに相互性のある製品のこと。Wi-Fiにより異なる無線LAN機器間での相互接続性が保証されているため、パソコン、携帯電話のような多様な機器が無線LANを利用しWi-Fiルーター(無線LANアクセッスルーター)を経由してインターネットへ接続できる。
【あ～お】		
空き家バンク	52	空き家の賃貸・売却を希望する人から申込みを受けた情報を、空き家の利活用を希望する人に紹介する制度。
一部事務組合	130	都道府県・市町村・特別区などの地方公共団体が事務の一部を共同で処理するために設置する組合。
駅前番所	46	子供たち及び駅利用者の安全を確保し、万一の事件・事故発生時の駆け込み場所としてJR成田駅西口に開設している防犯施設。愛称は「えきばん」。警察官経験者が毎日2名勤務し、立番と巡回を行っている。
応急手当普及員	45	主に事業所又は防災組織などの団体において、当該事業所の従業員又は防災組織などの構成員に対して行う普通救命講習及び救命入門コースの指導に従事する者のこと。
オープンデータ	127	インターネットなどを通じて誰でも自由に入手し、利用・再配布できるデータの総称で、政府・自治体・研究機関・企業などが公開する統計資料・文献資料・科学的研究資料を指し、図画や動画などのデジタルコンテンツのこと。
汚水処理人口普及率	54	下水道処理人口の他に、農業集落排水、合併処理浄化槽による処理人口を足した値を人口で除した値。
親子方式	78	給食調理施設を有する学校(親)において、給食の調理を行い、調理施設のない学校(子)へ給食を配送する仕組みのこと。
親亡き後	69	障がいを持つ子どもの介護を両親が行っている家庭において、両親が亡くなった場合や両親が介護が出来なくなった場合に、その子の財産管理や介護を担うものがいなくなってしまう問題。
オンデマンド交通	66	デマンドは「要求、要請」の意味。利用者が電話などで乗車を予約し、乗り場や行き先はエリア内なら希望できる地域の公共交通のこと。

用語	ページ番号	解説
【か〜こ】		
核家族	19	ひと組の夫婦とその未婚の子供からなる家族。
学校支援地域本部	80	家庭・学校・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的として、学校が必要とする活動に地域のボランティアが参加することにより、学校を支援する仕組み。
学校評議員	80	公立学校の運営に保護者や地域住民の意向を幅広く取り入れるために、教員以外の者で教育に関する理解と識見を有する者のうちから校長が推薦した者。
合葬式墓地	57	一つの大きな墓に多数のお骨を共同で埋蔵(合葬)する形式の墓地。承継の心配がなく、少子高齢化や核家族化などに伴い需要が増えている。
観光入込客数	39	観光入込客とは、日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者のことをいう。観光入込客数とは、観光・ビジネスの目的を問わず、観光客を集客する力のある施設又はツーリズム等の観光活動の拠点となる地点(観光地点)及び行祭事・イベントごとの観光入込客の総数をいう。
官民連携	101	公的機関と民間事業者が協力して公共サービスを提供すること。公民連携とも言う。
基幹相談支援センター	69	身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の相談を総合的に行う機関。市町村、または市町村が委託するもの(社会福祉法人、NPO等)が任意で設置することができる。
基幹統計	127	国勢統計、国民経済計算、その他国の行政機関が作成する統計のうち総務大臣が指定する特に重要な統計のこと
北千葉道路	12	北千葉道路(一般国道464号)は、外環道と成田国際空港を最短で結ぶ計画延長約43kmの幹線道路。
機能別消防団	45	能力や事情に応じて特定の活動にのみ参加する消防団のこと。
共生社会 ホストタウン	18	ホストタウンの中でも、特にパラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現のためのユニバーサルデザインのまちづくり及び心のバリアフリーの取組みを実施するホストタウンのことで、本市は令和元(2019)年8月に千葉県内で初めて登録された。
行政評価	124	行政が実施する政策、施策及び事業について、どのような成果があったのか、当初設定した目標が着実に達成できているかなどの視点から、客観的・多角的に、評価・検証を行うもの。また、その評価結果を行政運営に反映させる手法のこと。
共生プラザ	50	航空機から発生する騒音に関する情報を提供するとともに、市民の健康の維持及び増進のための施設として、荒海地区に設置された施設。

用語	ページ番号	解説
共同利用施設	50	航空機騒音による空港周辺地域住民の生活の安全と福祉の向上を目的に、住民の集会の場、各種コミュニティー活動の重要な拠点として設置された集会施設。
景観形成重点地区	52	本市の景観形成を図る上でシンボルとなる地区や、すでに良好な景観が形成されており、その維持や育成を図る必要がある地区として、良好な景観の形成を重点的に推進している。
圏央道	12	首都圏中央連絡自動車道の略称。都心から約40～60キロメートルを環状に連絡する全長約300キロメートルの高規格幹線道路。
健康寿命	64	平均寿命のうち、健康で活動的に暮らせる期間。WHO（世界保健機関）が提唱した指標で、平均寿命から、衰弱・病気・痴呆などによる介護期間を差し引いたもの。
広域連携	37	地方公共団体が、共同して管理執行、連絡調整、計画作成を行うための制度。または地方公共団体の委員会、委員又は執行機関の附属機関等を、複数の地方公共団体が共同で設置する制度。
後期高齢者医療制度	72	75歳以上の後期高齢者及び65歳以上74歳以下で一定の障がいがあったり寝たきりとなっている高齢者を対象にした独立した医療保険制度。
合計特殊出生率	38	15歳から49歳の女性の、年齢別出生率を合計した指標。一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表す。
高度医療	76	薬事法の承認等を得ていない医薬品・医療機器を使用する先進的な医療技術。
高度情報化	78	テレビ、ラジオなどの従来の情報発信に加え、コンピューターなどの装置やインターネットなどの技術の活用により、情報通信環境が発展すること。
高齢者クラブ	64	高齢者を会員とする自主的な組織。豊かな知識と経験をいかして地域社会における諸活動に参加することにより、老後の生活を健全で豊かなものとし、生きがいを高めようという目的で結成される。
国際医療福祉大学	3	栃木県大田原市に本部を置く医療・福祉系の私立大学で、本市に、平成28(2016)年4月に成田看護学部及び成田保健医療学部を、平成29(2017)年4月には医学部を開設した。さらに令和2(2020)年3月には附属病院を畑ヶ田地区に開設。
国土強靱化	20	頻発する大規模自然災害等による被害を受け、国民生活や経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある大規模自然災害等に備え、強靱な国づくりを進めること。
国保運営の広域化	72	安定的な財政運営や効率的な事業の確保等、国保運営に中心的な役割を都道府県が担い、制度の安定化を目指すもので、平成30(2018)年度から実施されている。市町村は、資格管理、保険給付、保険料率の決定、賦課・徴収、保健事業等を担う。

用語	ページ番号	解説
国民健康保険制度	72	市町村住民を対象として、病気、けが、出産及び死亡の場合に保険給付を行う社会保険制度。
国家戦略特区	3	特定の分野に限定して規制緩和などを行うために国が定める区域。大胆な規制緩和によって企業の投資や人材を呼び込み、地域経済の活性化を促すとともに、産業の国際競争力の強化と国際的な経済活動の拠点形成を目指す。成田市は、平成26(2014)年5月1日に政令により東京都、神奈川県とともに、東京圏の一部として国家戦略特区に指定された。
コミュニティバス	102	市民の利便性向上等のため一定地域内を運行するバスで、車両仕様、運賃、ダイヤ、バス停位置などを工夫したバスサービス。
コンパクト・プラス・ネットワーク	100	人口減少・高齢化が進む中、都市全体の構造を見渡しながら、住宅及び医療・福祉・商業その他の居住に関連する施設の誘導と、それと連携した地域公共交通ネットワーク再構築により実現を目指すコンパクトなまちづくり。
【さ～そ】		
再生可能エネルギー	58	自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー。有限でいずれ枯渇する化石燃料などと違い、自然の活動によってエネルギー源が絶えず再生、供給され、地球環境への負荷が少ない。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱などのエネルギー源がこれに該当する。
在宅医療・介護連携支援センター	76	在宅医療と介護の連携を推進するための窓口。医療・介護関係者からの相談対応や、在宅医療に関する各種研修会も開催している。
最適整備構想	54	施設の劣化状況の調査結果に基づき、施設機能を保全するために必要な対策方法等を定めた構想。
ジェネリック医薬品	72	先発医薬品の特許が切れた後に発売される同じ有効成分の薬のこと。
資源循環型社会	56	環境への負荷を減らすため、自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを有効に使うことによって、廃棄されるものを最小限に抑える社会。
自主防災組織	44	地域住民によって結成される任意の防災組織のこと。成田市では、区・自治会・町内会等を単位として、結成されている。
市政モニター制度	122	登録制のアンケート制度で、モニターとして登録した方に、インターネットを活用し、パソコンやスマートフォンへ電子メールで市からアンケートや情報を発信し、回答を得るシステムのこと。
持続可能な開発目標(SDGs)	9	平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12(2030)年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されている。
実施プラン	130	国、県、空港周辺9市町、空港会社で組織する四者協議会が策定した、空港周辺地域の地域づくりに関する「基本プラン」に基づき、具体的な施策をまとめたもの。

用語	ページ番号	解説
生涯大学院	9	社会環境の変化に順応していく能力を再開発するための学習機会を提供する成田市の地域大学校。高齢者を大切な社会の担い手として、その豊かな能力を地域社会の向上のために生かし、新たな生きがいの創造を促すことを目的としている。
小規模保育事業所	19	0～2歳児を対象とした、定員が6人以上19人以下の少人数で行う保育事業所。
少子高齢化	17	出生率が低下する一方、平均寿命が伸びたことによって、人口全体に占める子供の割合が低下し、高齢者の割合が高まること。
証明書コンビニ交付サービス	127	住民票の写しをはじめとする市区町村の各種証明書が、コンビニエンスストア等の店舗で取得出来るサービスのこと。
シルバー人材センター	64	現役引退後の健康で働く意欲と能力がある60歳以上の方なら誰でも会員として登録できる組織。この組織を通じて、地域社会に貢献することで、高齢者への追加的収入や健康づくり・生きがいづくりが期待されている。
栽培漁業	31	稚魚や稚貝(ちがい)を放流し、成長させてから漁獲する漁業のこと。
事業承継	114	会社の事業を後継者に引き継ぐこと。中小企業では、経営者の高齢化や後継者不足が課題となっている。
市民満足度	32	成田市が行っている施策に対する満足度を「満足」5点、「やや満足」4点、「どちらとも言えない」3点、「やや不満」2点、「不満」1点と5段階で評価した場合の平均値。
指定管理者制度	126	体育館や図書館など地方公共団体が住民の福祉を増進する目的で設置した公の施設の管理運営を、地方公共団体が指定した民間事業者を含む法人・団体に行わせる制度。
指定避難所	45	被災者が一時的に滞在する施設のこと。市内の小中学校等34校、高等学校5校、公民館3館及び運動施設等10施設の52箇所が「指定避難所」として指定されている。
住宅用省エネルギー設備	59	環境への負荷低減・地球温暖化の防止等、環境の保全を図るための太陽光発電システム・燃料電池コージェネレーションシステム(エネファーム)・定置用リチウムイオン蓄電池などの設備のこと。
受動喫煙	74	火のついた先から立ち上る副流煙を、自分の意思とは関係なく吸い込んでしまうこと。副流煙には主流煙と同じく体に有害な成分が含まれ、ニコチン、タール、一酸化炭素などの成分量は主流煙よりも多いといわれている。
消費生活センター	46	消費生活に関するトラブルや悪質商法による被害などの相談を受け付ける暮らしの窓口。
障がい者グループホーム	41	障がいのある方に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助を行うサービス形態のこと。

用語	ページ番号	解説
新生成田市場	13	生鮮食料品等の流通における基幹施設である成田市公設地方卸売市場の老朽化に伴い、成田国際空港隣接地に、ワンストップの輸出拠点機能を備えた市場として、令和3(2021)年の完成を目指して移転再整備を進めている新しい成田市公設地方卸売市場のこと。
水源かん養	110	森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質の浄化も図られる。
スクール ソーシャルワーカー	78	児童・生徒が学校や日常生活で直面する、いじめや不登校、虐待、貧困などの問題について、家族や友人、学校、地域など周囲の環境に働きかけて、問題解決を図る専門職。原則として、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格が必要。
ストックマネジメント 計画	54	施設全体の管理(点検・調査、修繕・改築等)を最適化することを目的とした計画。
ストックヤード	56	日本語にすると「一時保管場所」のこと。再利用や再生利用を目的とした再資源可能物を搬出するまでの間、それらを一時的に保管する倉庫などの施設を意味して用いられる。
スポーツツーリズム	3	スポーツを活用した観光振興策。スポーツを観るための旅行やその周辺地域への観光ルートの整備だけでなく、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備や、そして国際競技大会の招致・開催、合宿の誘致などの活動も含んだ用語として使われる。
生活支援 コーディネーター	66	「地域支えあい推進員」とも呼ばれ、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援および介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者。
生活習慣病	73	食生活、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣がその発症・進行に大きく関わっている病気のこと。肥満症、高血圧、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病、などがこれにあたり、進行すると、動脈硬化を引き起こし、脳卒中や心筋梗塞やがんへ移行する可能性が高くなる。
性的マイノリティ	118	同性が好きな人や、同性・異性に関わらず好きになる人、自分の性に違和感をもつ人、または性同一性障害などの人などを総称した言葉。「セクシャルマイノリティ」、「性的少数者」、「LGBT」ともいう。
生物多様性	58	ある生物群系、生態系、または地球上に多様な生物が存在している状態、および進化の過程で多様な遺伝子プールが過去から未来へと受け継がれている状態を指す概念。
セクシュアル・ハラスメント	119	性的いやがらせ。特に、職場や学校などで行われる性的・差別的な言動のこと。
先端医療	76	厚生労働大臣が定める高度な医療技術を用いた療養。保険給付の対象とすべきかどうかを評価する評価療養の一種とみなされ、保険診療との併用が認められている。
総合型地域スポーツ クラブ	90	多世代・多種目・多志向という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。

用語	ページ番号	解説
総合窓口	126	転入・転出などの住所の異動や結婚・離婚・出生などの戸籍の届出の際に複数の課を移動する手間を少しでも軽減するため、これら一連の手続を1つの窓口で行えるよう設置している窓口サービスのこと。
【た〜と】		
待機・保留児童	38	保留児童とは、入所申込を行っているが、入所待ちになっている「入所待ち児童」のことをいう。待機児童とは、この「保留児童」のうち、特定保育所のみを希望している場合を除くなどの国が定める基準に該当する児童のことをいう。
多文化共生	43	国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。
地域型保育事業所	38	保育所よりも少人数の単位で、0～2歳の子どもを保育する事業。①小規模保育(利用定員6人以上19人以下)、②家庭的保育(利用定員5人以下)、③居宅訪問型保育、④事業所内保育の4つのタイプがある。
地域共生社会	41	少子高齢・人口減少、地域社会の脆弱化等、社会構造の変化の中で、人々が様々な生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、地域住民等が支え合い、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていくことのできる社会。
地域 コーディネーター	80	学校支援活動を組織的に展開するため、学校とボランティア及びボランティア間の調整を担う地域の方のこと。
地域包括 ケアシステム	66	高齢者が住み慣れた地域で自立した生活が継続できるよう、医療・介護・生活支援などが一体的に提供されることを目的とした仕組み。
地域包括 支援センター	41	社会福祉士、保健師(看護師)、主任介護支援専門員の高齢者保健福祉に関する専門職員が常勤で配置されており、地域の高齢者の方が住み慣れた地域で安心して生活を継続するための総合的窓口。
畜産クラスター体制	112	畜産農家をはじめ、地域の関係事業者が連携・結集し地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための体制のこと。
地産地消	58	地域で生産された農産物や水産物を、その地域で消費すること。
地方分権一括法	124	中央集権的な行政の在り方を見直し、国から地方へ権限や財源の移譲を進める法律の総称。
長寿命化計画	53	国土交通省が管理・所管するあらゆるインフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取組の方向性を明らかにする計画。
低炭素社会	58	地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出を、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑える社会。化石燃料使用量の削減、高効率エネルギーの開発、エネルギー消費の削減、資源の有効利用などによって実現を目指す。
特定健康診査	72	メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した健診で、血圧測定、腹囲測定、検尿のほか、血液検査による脂質検査、血糖検査、肝機能検査を実施する。

用語	ページ番号	解説
特定保健指導	72	特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる人に対して、生活習慣を見直すサポートをすること。
都市計画 マスタープラン	100	都市計画法第18条の2に定められている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」にあたるもので、市町村がその創意工夫のもとに、市民の意見を反映して、都市の将来のあるべき姿や都市づくりの方向性を定めるもの。
特殊詐欺	47	振り込み詐欺と、それに類似する手口の詐欺のこと。なお、振り込み詐欺はうその電話やメールで相手をだまし、指定した口座に現金を振り込ませる詐欺を総称したもの。
ドメスティック・ バイオレンス(DV)	119	配偶者、恋人など親密な関係にある者、またはあった者から暴力をふるわれること。身体的暴力に限らず、心身に有害な影響をおよぼす言動なども対象とされている。
トランジットツアー	18	航空機の乗り継ぎ時間を利用して行われる観光のこと。
【なへの】		
成田空港の 更なる機能強化	3	既存のB滑走路を北側に1,000メートル延伸し、3,500メートルへの変更やB滑走路の南側に、新たに3,500メートルのC滑走路を増設、また、令和元(2019)年10月27日からC滑走路供用開始までの間は、A滑走路における運用時間を午前6時から午前0時に変更し、C滑走路供用開始後には、空港全体の運用時間を午前5時から午前0時30分に変更する夜間飛行制限の変更等により、成田国際空港の発着容量を年間50万回としようとするもの。
担い手農家	112	農業経営への意欲や能力のある農業者のうち、農業経営基盤強化促進法にもとづく経営改善計画の市町村認定を受けた認定農業者など。
日本遺産	18	地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、平成28(2016)年4月に成田市、佐倉市、香取市、銚子市を舞台とした「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が認定された。
認知症 初期集中支援チーム	66	複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートを行うチーム。
認定農業者	112	農業経営基盤強化促進法にもとづいて、効率的で安定した農業経営を目指すため作成する「農業経営改善計画」(5年後の経営目標)を市町村に提出して認定を受けた農業者(法人を含む)のこと。
農用地区域	111	農業振興地域の整備に関する法律に基づき、農業振興地域内において今後相当長期にわたり農業上の利用を確保すべき土地として市町村が農業振興地域整備計画で用途(農地、採草放牧地、農業用施設用地等)を定めて設定する区域。
ニューツーリズム	106	従来の観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態のこと。

用語	ページ番号	解説
【は～ほ】		
働き方改革	116	働く人々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革。
花の回廊	52	取香川から根木名川で整備が進められている、桜の名所として親しまれている散策路。
パブリックコメント	9	政策の立案などを行おうとする際にその案を公表し、この案に対して多くの市民から意見や情報を提出してもらう機会を設け、提出された意見などを考慮して最終的な意思決定を行う仕組み。
バリアフリー	18	原義は「障害・障壁のない」という意味。日常生活や社会生活における物理的、心理的な障害や、情報に関わる障壁などを取り除いていくことをいう。高齢者や障がい者にとって安全かつ、住みよい社会を作るために、近年注目されている概念。
避難行動要支援者	44	市内に居住する要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者）のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者をいう。
扶助費	71	社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、児童、心身障がいのある人等に対して行っている様々な支援に要する経費のこと。
付帯施設	57	成田富里いずみ清掃工場から発生する余熱を有効利用する施設（余熱利用施設）。健康増進やふれあいの場としての利用が期待される施設の建設を推進している。
放課後子ども教室	84	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動を行う教室のこと。
ビジット・ジャパン案内所	108	略称「V案内所」。観光客に情報を提供する対面式の案内所のうち、外国語を話すスタッフが常勤する、外国語パンフレットを常備するなど外国人観光客が利用しやすい環境を整え、日本政府観光局（JNTO）が認定している案内所のこと。
ファミリー・サポート・センター	60	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う組織。
ホストタウン	18	2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける事前合宿の誘致や参加国・地域との交流事業などを担う自治体を指す名称。
ホスピタリティー	106	心のこもった、手厚いもてなしや、その精神を指す。

用語	ページ番号	解説
【ま〜も】		
マイナンバー制度	128	「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき、市民一人ひとりに通知される12桁のマイナンバー（個人番号）を活用した制度のことで、社会保障、税、災害対策に係る行政手続で利用される。
マザーズコーナー	116	子育てをしながら就職を希望している人に対して、キッズコーナーの設置など子ども連れでも来所しやすい環境を整備し、担当者制による職業相談、地方公共団体等との連携による保育所等の情報提供、仕事と子育ての両立がしやすい求人情報の提供などを行うコーナーのこと。
【や〜よ】		
ユニバーサルデザイン	18	障がいの有無、年齢、性別、国籍等にかかわらずさまざまな人々が気持ちよく使えるよう都市や生活環境を計画する考え方。障がいの有無に対処するバリアフリーデザインに対し、すべての人が使いやすいデザインを指す用語。
【ら〜る】		
ライフスタイル	19	生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。
ライフステージ	74	人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階。
ライフライン	54	生活の維持に必要な不可欠な、電気、ガス、上下水道、電話、交通、通信などをいう。
レガシー	18	遺産。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵。
【わ〜ん】		
ワーク・ライフ・バランス	116	やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるという考え方。仕事と生活の調和。企業はこの実現のために、フレックスタイム、育児・介護のための時短、在宅勤務、テレワークなどを導入している。
ワークショップ	9	もともとは仕事場や作業場を意味するもの。参加者が体験し、情報を共有し、協働しながら何かを生み出す創造の手法であり、そのことから、まちづくりにおける住民参加の手法の一つとされている。
ワンストップ	3	1か所で用事が足りること。1か所で何でも揃うこと。

成田市総合計画
「NARITAみらいプラン」
第2期基本計画
2020→2023

発行 成田市
編集 企画政策部企画政策課
〒286-8585
成田市花崎町760番地
TEL:0476(20)1500
発行日 令和2(2020)年3月
登録番号 成企19-058



令和2(2020)年 3月
成田市